

特集

実践的に考える力の育成

【対談】実習で考える力を育む重要性 任和子・阿部幸恵

基礎看護学から、自ら考える学生への学習支援 伊藤綾子

臨床の立場から基礎教育に携わってみてきたこと

明神哲也

学生が一貫して学べるシナリオづくり 藤野ユリ子

【特別記事】

臨床看護師が「看護教育学」を学んで

池田葉子・島田伊津子・中村加奈子・金子あや

看護基礎教育と新人看護職員研修のシームレスな連携に向けて

「看護管理学」教育に関する提案 新実絹代・草間朋子

【新連載】

授業を良くする！ 教育関連理論・1 西野毅朗

【連載】

専門家と市民の架け橋 CoSTEP・4 種村剛

リズムとからだ「うまくいく」と「うまくいかない」の謎・7 伊藤亜紗

すべて、転んで、立ち上がるために 看護職生涯発達学から・7

佐藤紀子・村上優子

看護教育、継往開来・6 江藤裕之・林千冬

優れた“わざ”をどう伝えるか

——技術の「背後にある意味」を教える・10(最終回) 阿保順子

「配慮が必要な学生」の学びにつなげる対応——臨床実習における

教育上の調整を考える・10 飯岡由紀子

編集後記

●そもそも、アクティブ・ラーニングという言葉が広がる前から、「学生とつくる授業」も「学生がつくる授業」も普通に存在したと思います。小学生のときの「調べ学習」などは完全にそうです。小らのときのクラスは「芸人」が多かったこともあり、調べて発表する際、コント(?)があるのが当たり前でした。発表後の質問にボケて先生にツッコまれた友達ネタは、今も記憶に残っています。ただ、このような「ゆとり」は、中学、高校と進み勉強が受験第一になると同時に消えていきました。●しばらく前まで諸悪の根源のように言われていた「ゆとり教育」ですが、問題だったのは「ゆとり教育」そのものではなく、その失敗だと私は考えています。学生の授業への参画は「ゆとり」がなければ実現しません。「ゆとり」をどうつくりどう活かすかは、今も先生方に委ねられているのです。……大野

●SNS もずいぶん多様化しています。個人的には情報収集で Twitter を使っている程度ですが、近頃の若者は Instagram 派がどんどん増えているとのこと。文章や考えることは、昔とそんなに変わらないと思いますが、ちょっとした写真の、特に自撮りの技術だけは、今、世界同時多発的に異様に発展していますよね。なんだかキラキラしていて、眩しいですね。この夏でも恐るべき写真があげられているのでしょうか。うらやましい限りです。小誌アカウントは Twitter と Facebook にひっそりとあります。また見つけたらフォローしてください。●それと、小誌で今ちょっとしたキャンペーンもやっているのです。会社ウェブサイトや Twitter でご覧になってみてください。……番匠

◎編集室ツイッター

http://twitter.com/KANGOKYOIKU

看護教育 第58巻 第9号 2017年9月25日発行(毎月1回25日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2017, Printed in Japan

(1部) 定価: 本体1,500円+税

2017年・年間購読料(増大号を含む12冊): 冊子版15,540円, 冊子+電子版/個人18,540円, 電子版/個人15,540円(いずれも+税, 送料弊社負担)

発行: 株式会社医学書院 代表者: 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部 TEL: 03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL: 03-3817-5776 メールアドレス: kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当: 番匠・大野・早田

本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は株式会社医学書院が保有します。本誌を無断で複製する行為(複写, スキャン, デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて, 業務上使用する目的(診療, 研究活動を含む)で上記の行為を行うことは, その使用範囲が内部的であっても, 私的使用には該当せず, 違法です。また私的使用に該当する場合であっても, 代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は, そのつど事前に, 出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/17/紙: ¥500/電子: ¥750/論文/JCOPYが本誌の頁表記に並んで記されているのは, 1論文1回複製につき紙は500円, 電子版は750円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY宛にご連絡いただく際には, 筆頭著者名と併せて本表示をご提供くださるようお願いいたします。

「看護教育」は, 株式会社医学書院の登録商標です。

『看護教育』 バックナンバーのご案内

(1部) 定価：本体 1,500 円＋税
年間購読 好評受付中!
電子版もお選びいただけます。

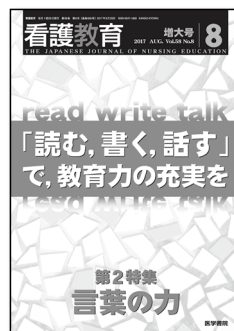
Vol.58 No.8

2017 年 8 月
特集

「読む、書く、話す」で、教育力の 充実を

入学生「読む、書く、話す」能力が、授業に参加するには不十分であると感じることは少なくないでしょう。そのため、初年次教育として、それらの能力を高めるためのプログラムを取り入れる大学、専門学校は近年増加しています。これはつまり、学生がそれまでに学んだことだけでは、専門教育についていくには足りないかと判断されることです。翻って、教員としての「読む、書く、話す」能力は、その先生がそれまで学んだことで足りているでしょうか、教育者として授業を行うのに十分でしょうか。ただ、看護師の先輩としての立場のみで「教育」にあたっているのでしょうか？
大学では、設置基準の改正により、今年度より教員を含む SD (Staff Development) が義務化されました。自分が学生や院生として、あるいは専門家として学んだことだけで「教育」できるとする見方は通用しなくなります。当然専門学校においても、教員には同様な能力が求められるでしょう。
弊誌ではこれまで、看護教員の教育力 UP のための継続研修の必要性について取り上げてきました。教育技法や教育理論を学ぶことももちろん重要ですが、まずは教員としての「読む、書く、話す」能力の向上から始めませんか？それが教育力の向上にもつながります。今回の特集の筆者らが学んできた、そしてこれから学んでいくことを参考に、研修受講、研修企画を進めていただけることを願っています。

- 「話す」能力向上のためにも、「読む」「書く」力の充実を……………戸田山和久
- 専任教員養成講習会における「読む、書く、話す」への取り組み……………福岡公香／高口みさき／田口恵美子
- 教員という立場から、自ら学んだ「読む、書く、話す」を見直す……………古都昌子
- 「読む、書く、話す」を学ぶ機会を得て考えたこと……………日下部華苗
- 「読む、書く、話す」力を身につけ、みがくために……………山口みのり
- さまざまな場で学んだ「読む、書く、話す(聞く)」を教育現場で活かすために……………鈴木由紀子



■ 第2特集 言葉の力 ■

看護の岸辺で言葉の葉を想う 小玉香津子／【インタビュー】医療の言葉への危惧と応援 外山滋比古先生に聞く／【インタビュー】同調圧力から逸脱しつつ、生き延びていくための「言葉と勉強」——千葉雅也先生に聞く／【対談】気づける身体をつくること——実践のことば化をめぐる 諏訪正樹・大谷則子

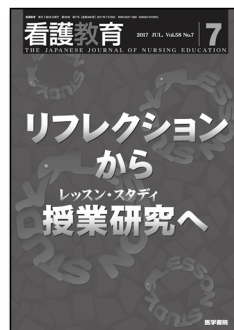
Vol.58 No.7

2017 年 7 月
特集

リフレクションから 授業研究(レッスン・スタディ)へ

看護教員は毎日「教育」を行っています。教室での講義や、学内演習そして臨地実習。どれも準備し、実施し、リフレクション(評価)を行っているはずですが、けれども、そこで終わっていないでしょうか。リフレクションした内容をもとに新たな授業案を作成し、実施、リフレクション、改善を繰り返すことで、教育は進化していきます。このサイクルを回すことこそ、授業研究(レッスン・スタディ)なのです。
「教員は教育者であるだけでなく、研究者でなくてはならない」という言葉を研究発表の場でよく聞きます。もちろんそのとおりでしょう。しかし、調査研究や学生を対象とした研究も大事ですが、まず教員が研究対象にすべきはもっとも身近な自らの授業ではないでしょうか。その重要さは、おそらくどの教員も気づいているはずです。
ぜひ、「授業」を「研究」してください。授業研究の充実、教員自身だけでなく、所属する学校の発展にも必ずつながります。

- リフレクションは授業研究の一部である……………吉崎静夫
- 看護教員が行っている「授業研究」をより効果的にするために……………蔵谷範子／永末弥生
- 授業研究の継続実践のために必要なこと……………工藤敦子
- 小規模な専門学校での授業研究の継続と課題……………野黒愛／表美幸／玉山浩一郎
- 授業見学・授業研究会のすすめ——学習指導観・授業観を確立するために……………高旗浩志



【2017 年 6 月号 (Vol.58 No.6)】

実践知の学びを再考する
“わざ言語”

【2017 年 3 月号 (Vol.58 No.3)】

学生のセクシュアリティに
向き合う

【2017 年 5 月号 (Vol.58 No.5)】

「楽しい」解剖学を求めて

【2017 年 2 月号 (Vol.58 No.2)】

キャリアを支援する赤十字看護
専門学校教員ラダー

【2017 年 4 月号 (Vol.58 No.4)】

思考にきく発問

【2017 年 1 月号 (Vol.58 No.1)】

教える力を養うための
継続研修を

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2015 年 7 月号 (Vol. 56, No. 7) 以前の号は、東亜ブック (TEL.03-5947-4781, FAX 03-3923-4539, <http://www.taabook.com/>)
- 2015 年 8 月号 (Vol. 56, No. 8) 以降の号は、医学書院販売部 (TEL.03-3817-5659) にお願います。